



宮城県中学校長会

会 報

令和3年度 宮城県中学校長会 第72回総会開催される

総 会 概 略

5月31日(月)、第72回宮城県中学校長会総会がホテル白萩を会場として開催されました。今回こそ会員全員が一堂に会し、長澤裕司新会長の下で厳粛かつ和やかに執り行いたいと準備して参りました。しかし、コロナ感染症について未だ終息が見通せず、校長会役員と各地区から1名ずつの新会員、計44名での開催となりました。

佐藤剛総務部長の開会宣言後、3月末に御勇退された27名の校長先生方を代表して、中里寛様に感謝状を贈呈しました。中里様からは、「人生は100年の時代となり、定年後の残り40年は第2の人生となる」「校長先生方には今のうちからその種まきを」と御挨拶いただきました。

続いて、新会員の紹介と会長から各地区代表の新会員へバッチが授与されました。更に新会員を代表し、三本木中学校佐藤仁校長から、力強く思いのこもった挨拶をいただき、前半の締めとなりました。

後半の部では、不動堂中学校加藤明弘校長と鹿折中学校菅原定志校長が議長を務め、前年度と本年度の事業及び会計について承認されました。また、会則等の改正、活動方針、宣

言決議、要望書についても原案どおり承認されました。これらの内容について各地区で説明があったことと思いますが、会員各自で御確認願います。また、令和4年度に予定されている東北中学校長会宮城大会の概要について、実行委員長である東豊中学校三浦仁校長から説明いただき、共通理解を図りました。

恒例の宣言決議は感染症対策のため、樋口英明副会長が読み上げて決議いたしました。閉会の挨拶は三田村素志副会長が行い、「ニューノーマルの時代となり、新たな創造が求められ、経験したことがないことも同時進行していく。変化の激しい中で校長会は共に考え、情報を共有する仲間としてありたい」と示唆の富んだ挨拶があり、無事閉会となりました。





あいさつ

宮城県中学校長会

会 長

長 澤 裕 司

桜の季節から麦秋の候へと時が移ろい、新年度のスタートから慌ただしく過ぎた二ヶ月でした。コロナ禍での学校経営が2年目となり、新しい生活様式での学校生活習慣が確立され、不安を抱えながらも、県内各中学校に、元気な子どもたちの笑顔と元気あふれる声が響いていることと拝察いたします。

4月に開催されました理事会に於いて、今年度の会長に選出されました、名取市立増田中学校の長澤裕司でございます。今年一年間、何とぞご支援とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

さて、本日は、ご多忙の中、前宮城県中学校長会長、中里寛様にご来臨を賜り、規模縮小とはなりましたが、令和3年度宮城県中学校長会総会が開催できることを、会員皆で喜びたいと思います。



この春の人事異動において、27名の皆様のご勇退、10名の方がご退会されました。これまでのご尽力に感謝申し上げますとともに、ご教示いただきましたことを胸の中で大切に温めてまいります。そして新たに、16名の再入会、27名の新入会員がありました。心より歓迎申し上げますとともに、たいへん力強い思いでございます。

本会は、昨年度も規模を縮小して開催いたしました。ただ、新入会員をお迎えできなかったことが大きな反省材料として挙げられました。本会はこれまで、宮城の中学校長が連携を図り、中学校教育の全領域にわたり、当面する課題の検討や研究協議、関係機関への積極的な提言や情報発信により大きな業績をあげてきました。本会が持つ歴





史と伝統、そしてこの会の特別な空気に新入会員が触れ、校長としての自覚を新たにする場ともなってきました。

そこで、今年度は、各地区の新入会員代表のみとはなりますが、本会の雰囲気を感じていただき、各地区の同期に伝えることで、先輩方から受け継がれてきた文化の継承者になっていただきたいのです。

昨年度のこの時期は、まさに暗中模索、学校教育活動にも大きく新型コロナウイルスが影響を及ぼしました。ただ、今は、昨年より感染現状は厳しくなっていますが、私たちは、「何ができるのか、何ができないのか」「何を為せばできるのか」を学びました。子どもたちの学びの保障、子どもの学びを止めないために、尽力していかなければなりません。

私達、中学校長は、今後も新型コロナウイルス感染症とともに生きていかなければならないという認識に立ちつつ、この予測不能な時代の中学校教育の課題に対応し、教育基本法をはじめとする関係法規、学習指導要領の趣旨を踏まえつつ、自らの責任において全日中新教育ビジョンに基づく学校からの教育改革を推進し、教育の真価を示すために、私達宮城の中学校長は手を携え、一丸となって邁進して参りましょう。

そして、東日本大震災から10年が経過し、あの日、私たちが経験したことを若手教師等に伝え、

防災教育の充実や風化防止にも努めなければなりません。

また、学習指導要領の円滑実施ばかりではなく、「コロナ禍での学びの保障」「G I G Aスクール」「働き方改革」「部活動改革」「令和の日本型教育」等々、校長先生方がリーダーシップを発揮しながら、この変革の時代を好機ととらえ、生徒や地域の実態を踏まえ、カリキュラム・マネジメントを計画的・組織的に推進していくことが重要です。

とかく、校長は孤独とも言われます。しかしながら、全国には、9000名の、宮城県には、130名の仲間がいます。

昨年から今日まで、私自身が悩み、不安を抱え、判断に窮することが多々ありました。その都度、県、管内、市校長会間で情報を共有しつつ共通理解を図り、難題を乗り越えてきました。まさに、親友は悲しみを半分にし、喜びを二倍にするといった存在でした。これこそが中学校長会の存在意義の一つではないでしょうか。

結びになりますが、これまで述べてきたように教育課題は山積しております。

本日の総会では、本年度の校長会のさらなる活性化に向け、様々な協議が予定されております。議事が円滑に進められますとともに、本年度の宮城県中学校長会の会員が相互に研鑽に努め、山積する教育課題を解決しつつ、宮城県の教育の一層の充実と発展に貢献することを改めて皆様と誓い合い、開会のあいさつといたします。



宣 言

今日、わが国の教育は人格の完成を目指し、伝統と文化を尊重するとともに、豊かな人間関係で満たされる社会を創るたくましい日本人を育成する使命を担っている。

私たちは、新型コロナウイルス感染症とともに生きていかなければならないという認識に立ちつつ新しい時代の中学校教育の課題に対応するとともに、自らの責任において全日中教育ビジョンに基づく学校からの教育改革を推進し、新たな中学校教育の創造に努めなければならない。

宮城県中学校長会は、東日本大震災による被災からの再生と新型コロナウイルス感染症対応を第一義に、これまでの成果の上にならって、当面する教育課題の解決を図り、特色ある学校づくりに努め、県民の付託に応える決意である。

ここに、第72回総会に当たり、下記事項を決議し、その実現に期する。

決 議

- 一 人間尊重の精神に徹し、「社会を生き抜く力」や「よりよい社会を形成する力」を育む教育に努める。
- 一 新学習指導要領に基づく特色ある教育課程を編成・実施・評価・改善し、確かな学力の定着、豊かな心と健やかな身体の育成に努める。
- 一 現在の教育課題に即した研修を充実し、教職員の資質・能力の向上と使命感の高揚に努める。
- 一 創意ある教育活動を展開し、家庭・地域社会から信頼される、開かれた学校づくりに努める。
- 一 教育活動の活性化を目指し、人的措置をはじめ確固とした教育条件の整備を期する。
- 一 「義務教育費国庫負担制度」及び「人材確保法」を堅持し、教育水準の維持向上を期する。
- 一 学校が担うべき業務の明確化・適正化をはじめ、働き方改革を推進し、新しい時代に求められる学校づくりに向けリーダーシップを発揮する。

令和3年5月31日

宮城県中学校長会

//// //// 新 任 抱 負 //// ////



金津中学校のラストラン

角田市立金津中学校長

佐藤 勇 寿

校舎から遠く西に見える蔵王連峰が白一色から緑へと色を変え、4月の赴任からの時の流れを感じる今日この頃です。教員生活32年目にして初めて、生まれ育った仙南の地で勤務する機会を与えていただきました。近隣の学校には昔懐かしい先輩方や同級生、後輩が勤務しており心強く感じています。

新任校長として着任した金津中学校は75年の歴史に幕を降ろし、今年度末に閉校することが決まっております。学校の「クローザー？」としてどのように学校を締めくくるのか、悩み考えながら1年が瞬間に過ぎてしまうのだろうと感じているところです。

金津中学校は、昭和22年に「枝野村藤尾村学校組合立金津中学校」として開校しました。学校がなくなるのは、地域にとって、卒業生にとって、そして在校生にとってすごく残念なことであり大きなことです。開校以来、75年もの間この場所に学校があった歴史を記録に残そうと、生徒が主体となり『閉校記念誌』の制作に取り組んでいます。記念誌制作の費用はクラウドファンディングに挑戦し、予想を超える約180名の卒業生や地域の方々より協力をいただき準備しました。掲載する内容は生徒の創意工夫を生かし決定しました。古い資料や写真を整理し、角田市長さんをはじめとする本校卒業生への取材活動などを通して、改めて地域の良さを知り、地域に生きる一人の人間としての自覚を高める学習の良い機会となっています。

このような取組を通して、閉校という事実を前向きに捉え、地域に根ざした学校経営について再認識させられております。“学校は地域に浮かぶ船”と言われる。長い間本校を支えていただいた地域の方々と共に、生徒・教職員手を取り合い、「金津中学校のラストラン」のゴールに向けて駆け抜けていきたいと思っております。

//////////////////////////////////// 新 任 抱 負 //////////////////////////////////////



「心を合わせて」

蔵王町立遠刈田中学校長

目々澤 辰 悟

雄大な蔵王連峰屏風岳の麓、標高330mの地に、400年の歴史を誇る遠刈田温泉があります。本校はこの地に開校して75年目を迎え、現在全校生徒51名が在籍しています。生徒は素直で明るく、毎朝元気にクマ鈴を響かせながら登校してきます。

先日、地域で芸術活動を推進する「とおがったプロジェクト」代表の佐藤さんが来校しました。彼は地域の活性化を目標に、空き家を一定期間、芸術家に無料で貸し出しています。遠刈田の地で作品制作及び発表活動を行うことで、若い芸術家を後押しするとともに、児童生徒との交流を通して、遠刈田の子供たちに刺激を与えたいとの願いを持っています。学校では、25歳の自分の姿を思い描くことで、進路指導の充実を図っていることをお話したところ、夢に向かって真剣に取り組む若い芸術家とのワークショップが話題に上り、8月中旬から活動を予定している音楽家（バイオリン）の方に、音楽の授業に参加してもらうことが決まりました。

本校では、主に町の地域学校協働活動「ざおうっ子応援団」を活用し、地域の方を講師とした様々な活動を実施しています。栽培学習、太鼓・琴の演奏、毛筆指導、蔵王登山、樹氷観察、スキー教室、地元出身音楽家等による地域公開授業、役場と旅館組合との共催による修学旅行PR活動等、豊かな自然と、温かな地域の方々の思いと力をお借りしながら、豊かな教育の実現を目指しています。

また、年度始めに教職員全員による話し合いを行い、下記の重点目標を決定しました。現在、その実現に向けた具体的な取組を始めているところです。

- ①笑顔で明るい挨拶ができ、けじめのある生活を心掛ける生徒
- ②将来を見据え、目標を持って学習に取り組む生徒
- ③互いの成長を認め合い、自分を大切に作る生徒

保護者・地域との連携を基盤とし、若い教職員とベテランが一丸となり、心を合わせて、学ぶ意欲と笑顔あふれる学校づくりに努めていきたいと考えています。



「つながりを大切に」

村田町立村田第二中学校長

松 崎 恵 子

白い校舎の向こうに金色の麦畑と美しい蔵王連峰を望む村田第二中学校は、江戸から明治にかけて仙南の商業の中心として栄えた「蔵の町」村田にある、生徒数74名の小規模校です。

向上心と活気のある生徒たち、学校への関心が高く協力的な保護者、生徒を温かく見守る地域の方々、生徒の成長を一番に考える職員に出会い、幸せだと思うと共に責任の重さを感じています。

単純な私は、まずは生徒と地域を知ることだと思い、「生徒写真で名前当てクイズ」休みの日に「住宅地図を片手に学区をドライブ」から始めました。また、紅花栽培や米作りでお世話になる「むらたっ子応援団」の方々などを校長室にお招きして、地域の興味深いお話などもうかがいました。

目指す学校は、月並みですが「安心できる学校」です。「安全な環境」づくりからと考え、施設設備の保全、安全・防災教育に力を入れています。そして「一人一人の居場所」づくりです。学習や諸活動の一層の充実を図り、「わかる・できる喜び」に導き、自己肯定感と未来への意欲を喚起したいと考えています。熱心な本校職員と共に、生徒が安心して自分自身を表現でき、互いに認め合いながら良さを生かしていける「温かい学校」をつくりたいです。それから「開かれた学校」です。生徒の成長や学校の取組などを保護者や地域に積極的に発信し、親しみのある学校を目指します。

これも月並みですが、教諭時代から大切にしている危機管理の「さしすせそ」～最悪を想定して、慎重に、素早く、誠意を持って、組織的に～を常に心に置き、正しい判断、決断を行いたいです。村田町には4つの小中がありますが、私以外の3人の校長先生方が本当に素晴らしく、今沢山のことを教えていただいています。Web会議にも挑戦し、楽しく情報交換ができて、勝手に絆を感じて嬉しくなっています。校長会のつながりにも感謝し、さらに広げていけたらと願っています。

//////////////////////////////////// 新 任 抱 負 //////////////////////////////////////



「新たな歴史に向けて」

塩竈市立玉川中学校長

堀 内 恵理子

4月1日、緊張した面持ちで着任すると、部活動の生徒たちが集まり、昇降口前で出迎えを受けました。玉川中の特色について、堂々と伝えてくれた生徒会長の歓迎の言葉と生徒たちの元気な挨拶に、この学校の校長になったという重みを実感しました。

本校は創立60年目を迎えますが、校長である私自身、学校の歩みについて分からないことが多く、前校長先生が生徒会誌創刊号からトピックスをまとめられた100ページを超える冊子が、玉川中の歴史を紐解く私のバイブルになっています。歴代校長先生の巻頭言やその年の主な出来事を読み進めると、生徒たちの生き生きした活躍ぶりが手に取るように伝わるとともに、その背後にある多くの先生方の熱い指導も目に浮かぶようでした。また、本校では、震災後の支援をきっかけに滋賀県草津市立玉川中学校との交流が続いており、合唱曲「ひとつになる」が制作され、現在でも合唱コンクール等で歌い継がれています。交流も10年目を迎えますが、多くの人達の思いと繋がりを大切にする気持ちをこれからも育んでいきたいと思えます。

過去を知り、伝統や良さを引き継ぐとともに、生徒と教職員、保護者や地域の皆様と、未来を見据え新たな歴史をつくっていききたいと思えます。そのためには、生徒にとって安心して学ぶことができる学校、教職員にとって働きがいがある学校、保護者にとって通わせたいと思う学校、地域にとって関わり合いたいと思う学校を目指し、共に歩み、共に成長できる関係をつくりたいと願っています。とはいえ、不安や迷いも多く、その都度相談に乗ってくださる先輩校長先生方のお陰で、少しずつ前進しているところです。「生徒のために」を合言葉に、笑顔を忘れず、教職員や保護者、地域の皆様と共に一歩ずつ歩んでいきたいと思えます。



新任校長としての抱負

岩沼市立岩沼西中学校長

山 田 敦 子

3月31日。教頭としての仕事に何とか区切りをつけて帰宅。そして気付いた。

「明日からどうすればいいんだ!？」

これまで出会ってきた校長先生方は、冷静沉着、威風堂々、泰然自若としていた。もちろん、一晩でそうなる訳もなく、プチパニックのまま、令和3年度を迎えることとなった。仙台教育事務所へ辞令をいただき、新たな勤務地となる岩沼市へ車を走らせる。教育委員会にて教育長からいただいた歓迎と激励の言葉を胸に、岩沼西中学校へ赴いた。

地に足がつかないまま、校長室に入ると机上一通の手紙が置かれていた。差出人は生徒会長。便せん2枚にびっしりと書かれた文面からは、西中生としての誇りがあふれ出ている。結びには「私たちは勉強も部活動も行事も一生懸命頑張ります。ご指導お願いします」とあった。己のあり方に右往左往している場合ではない。この子どもたちのために何ができるのかを全力で考え、実践していくことが校長としてやるべきことの1丁目1番地ではないか。生徒に校長としてのあり方を示してもらった4月1日であった。

あれから2ヶ月。校長としての判断が迫られる。分からないことがたくさんある。新学習指導要領の全面実施、コロナ禍、不登校、学力の2極化等々、学校課題が目の前に立ちだかっている。重責を実感する毎日であり、緊張の連続である。

しかし、周囲には困ったときに手を差し伸べてくれる頼りになる先輩校長先生方がいる。職員室には生徒の幸せを共に願う43名の教職員がいる。そして目の前には、活力を与えてくれる507名の生徒がいる。一人ではない。

今日も校長室前のフラワーロード（生徒が育てている花々が咲き誇っている）を爽やかな風と共に、生徒が登校してきた。

「花があり 歌があり 絵があり 子どもたちの笑顔あふれる学校」をチーム西中一丸となって、築いていきたいと強く思う日々である。

//////////////////////////////////// 新 任 抱 負 //////////////////////////////////////



『進化』を求めて

大和町立宮床中学校長

阿 部 朋 樹

コロナ禍ということもあり、生徒たちとの対面が叶ったのは4月8日の始業式でした。背筋を伸ばし、個々が静寂をつくり出しているかのような整然とした立ち姿に出会い、感激と同時に身の引き締まる思いがしました。地域に守られ、支えられてきた宮床中学校という土壌の素晴らしさを実感した瞬間でもありました。始業式では、「進級は自分を変えるチャンス、これまでを、これまで以上に向上させるチャンス」であることを話し、失敗を恐れず、自分を『進化』させるための挑戦を続けていこうと呼び掛けました。もちろんこのメッセージは、生徒に向けたものであると同時に、教職員に対して、そして、「新任校長」としての私自身に向けた叱咤激励でもありました。

あの日から、早2か月半が経過しますが、校長としての責任の重さや言いようのない不安な気持ちは増すばかりです。そんな毎日ではありますが、船形山を背景に立つ壮麗な「七ツ森」に向かって進む通勤時の爽やかな風景、スクールバスの登校指導で出会う340名の生徒たちと交わす毎朝の挨拶は、何よりの活力源となっています。「この子たちの笑顔が輝く学校づくり」「この子たちの後ろにいる、家族の笑顔も輝く学校づくり」の実現に向けて邁進しなくてはと、日々決意を新たにしているところです。

車内のラジオから流れていた、ある企業経営者の対談の一説が心に残っています。「一生懸命な職場にはかなわない。楽しい職場にはさらにはかなわない」。まさに学校も同様です。全職員が個性を発揮し、協力・協働しながら一生懸命に楽しく学校課題に取り組む。私たち教職員は、生徒にとって一番の教育環境であり、生き方のモデルです。このことを肝に銘じ、「一生懸命さ」や「楽しさ」を、私たち自身が率先して生徒たちに見せていくことを何よりも大切にしたいと思います。それが、『進化』を求めて挑戦を続ける学校、教職員の姿であると信じながら…。



「まちの財産を みんなで育てる」

富谷市立東向陽台中学校長

阿 部 篤 史

「とみやまちには大きい山もなく
大きい川にも恵まれない
海にも接していない
豊かにあるのは子どもたちだ
この子らをまちの財産にしたい
みんなで育てたい」

校長室に飾られている、第3代富谷町長若生照男氏の言葉である。出勤初日、私はこの言葉を校長室で初見し、地域の方々が脈々と受け継いできた「教育」に対する思いや期待の大きさを強く感じ、心が震えた。また、校長室に並んでいる歴代の校長先生方の表情からは「とみやの宝である子どもたちのために力を尽くせ」と背中を押されているように感じた。校長として、強い信念をもち学校のために誰よりも汗を流そうと堅く心に誓った一日目であった。

私が赴任した東向陽台中学校は、富谷市の南端に位置し仙台市に隣接している。校舎は標高80Mの高台にあり、校舎からは蔵王連峰や船形連邦、栗駒山まで四季折々の山容を一眸できる。居住地域は東向陽台団地と現在も開発が進む明石台団地で、今後ますます生徒数の増加が見込まれる。

学校教育目標に「自立・協働・創造」を掲げ、生徒一人一人の多様な個性や能力を見だし高めていく教育活動を全職員の共通理解と協力により実践し「学びがいのある楽しい学校」づくりを目指して教職員一同、取り組んでいる。

赴任して2か月が経過した。新型コロナウイルスに係る、正解の見えない様々な判断や対応に悩みつつ、活動の意義や目的を確認し、生徒の命を最優先に考えながら教育活動を実践している。当たり前前に出来ていたことが、当たり前ではなくなっている世の中、教育の不易と流行をしっかりと見極め、東向中の子どもたち一人一人を「まちの財産」として、大切に「みんなで育てたい」。

//////////////////////////////////// 新 任 抱 負 //////////////////////////////////////



「新任校長として」

大衡村立大衡中学校長

村 上 憲 一

4月1日、学校に到着した私を迎えてくれたのは、吹奏楽部の素晴らしい演奏と伝統の応援団による全力のエール、そして先生方の笑顔と拍手でした。温かい歓迎に感謝しながら、改めて職責の重さに身の引き締まる思いがしました。

さて、私が小学5年生の時、同じクラスに歩き方の変った男の子が転校してきました。彼は歩みも遅く、「歩き方が変」というだけで周りの友だちから、からかわれていました。嫌な思いをたくさんしてきたはずです。その年の運動会。彼も50mの徒競走に出場しました。48秒という記録は今でも鮮明に覚えています。記録だけではなく、最後まで必死に走る彼の姿は、今も脳裏から離れることはありません。「筋ジストロフィー」進行性の早い病気で、中学生になる頃には立つことができず、中学校3年間は車いすでの生活でした。彼は病気に負けることなく、勉強や行事をはじめ、すべての活動に参加しました。両親、友達、先生に助けってもらってです。何をすることも助けられていた彼を「彼ばかりずるい」と思っていた人もいました。でも、彼はそんな声に負けることなく、「僕はいつもみんなに与えられて生きている。だから、今度は僕が何かを与える生き方をしたい」と言いながら常に笑顔で前向きに努力していました。大人になり、人工呼吸器をつけ、動く筋肉は指先だけになってしまった彼。「この身体で生まれたからこそできることがある。」と言い、自分が生きて感じてきたことをもとに本を出版するようになりました。そして、多くの人の心の支えになれる生き方をしています。彼の言っていた「人に与える生き方をしてみたい。」この言葉が私が教員という道を選んだきっかけにもなっています。先日の初任校長研修会の折、学校の主役は「子供たち」と「先生方」というお話をいただきました。「人に与える生き方をしてみたい。」教師を志した頃の初心を忘れることなく、子供たち、先生方、そして地域の皆様のために、全力で職責を果たしていきたいと思えます。



「笑顔、挑戦、感動」

大崎市立三本木中学校長

佐 藤 仁

三本木中学校は旧三本木町の高台に位置し、正門に至るまで登校坂と言われる坂道が続きます。この坂道は、西側には桜並木、東側には業務員さんが丁寧に剪定した植栽が美しく、登校する生徒を癒やします。校門を過ぎ、校舎に向かうと、南側には花壇に色とりどりの花が植えられております。校舎入り口にたどり着き、振り返ると船形連峰を遠くに見ることができます。このすばらしい環境の三本木中学校に校長として赴任してから間もなく3ヶ月になります。

毎日、たくさんの報告、連絡、相談が寄せられ、その一つ一つに素早くて確かな判断をしなければいけないこと、コロナ禍の中、生徒、職員、その家族の命を守るなど、校長としての重責を強く感じているところでございます。

幸いにも、頼れる先輩校長先生方がいらっしやることで、支えて頂きながら、その職責を何とか果たす事ができております。

新学習指導要領の全面実施、新しい評価の在り方、カリキュラムマネジメントの確立、GIGAスクール構想のもとでのICT活用、学力向上、不登校いじめ対応、教職員の資質向上、働き方改革など、課題は山積しております。これらの課題解決に、昨年に引き続きコロナウイルス感染予防対策を講じながら取り組んでいかなければなりません。コロナ禍を言い訳にして、手を抜くことなく、三本木中学校の良き伝統を継承しながら、ブラッシュアップを図り、より良い学校運営をしなければと考えると身が引き締まる毎日です。

日々不安を感じ、気持ちが安らぐ時はございませんが、何が起きても、どんな場面でも腹を決めて、覚悟を持って、生徒たちの笑顔と感動の溢れる学校、教師と生徒がともに挑戦し続ける学校づくりを進めて参ります。

//////////////////////////////////// 新 任 抱 負 //////////////////////////////////////



いのち輝く学び

石巻市立桃生中学校校長

阿部 一彦

新・旧北上川の間に広がる豊穡の地、石巻市桃生町。鶯や雉が競い鳴く中、汗を流し自転車通学する全校生徒 170 名。何事にも熱心に取り組もうとする生徒のため、一生懸命に応え続ける平均年齢 28 歳の頼もしい学級担任。児童生徒を「地域の宝」として全戸で支え続ける地域。開校 52 年の恵まれた学校に赴任できた喜びと、一人一人の命を守り、教育目標の具現に向け、判断と決断する中で、改めて職責の重さを痛感しています。

新型コロナウイルスによる臨時休校後、教頭先生から「3つの感染症」の話を聴いた生徒が「一番怖いのはウイルスじゃない。そのウイルスにかかった人や検査を受けた人を責める人間だ。」と書いた。全生徒の感想に担任等が朝までにコメントを書き込んで玄関に掲示した。それに対し「学校に来るのが不安だった昨日の夕方、友達から『明日学校来れる？学校で待ってるからね』と連絡が来て、不安が楽しみに変わりました。」と返した生徒。下校途中、自転車を降りてゴミを拾ったり、花壇に毎朝水をやったりする生徒。父の故郷の復興に貢献できることを夢見、耕人塾への参加を決めた生徒。特別支援学級の生徒たちの笑顔のため、いつも語り、活動し続ける生徒たち。

自主的に職員室のごみ回収をしていた教員らが、生徒の無限の可能性を引き出すため、毎週末学びの場「希望塾」を企画している。希望塾が、英語弁論や美術、環境調査や弁論等、授業とは別枠の生徒の自主的な学びを育て、支援していく場の創造へと動き出している。自分のできることを積み重ねることで、よりよい社会に参画していることを生徒も教員も実感できる学びとしていきたい。

『新型コロナウイルスがなかったら』ではなく、『今できる最善のことができた』と振り返ることができる学校経営」と教えていただいた校長会で学んだことを自校化していきながら、生徒のいのちが輝いた学びを、初任者等が明るく、笑顔で語り合える学校を目指していきたいと考えています。



利点を生かした「小中連携校」として

登米市立新田中学校校長

櫻井 直人

4月1日、初めての登米市勤務、そして新任校長としての勤務ということもあり、期待と不安、緊張の中で校門をくぐりました。部活動をしていた生徒による出迎えのセレモニーがあり、生徒会長の「校長先生」という言葉に、あらためて校長としての重責を感じると共に、生徒が日々成長できる学校づくりをしなければ、という使命感を確固たるものとししました。

本校のある新田地区は、ラムサール条約で知られる伊豆沼や内沼、長沼の周辺に位置し、自然豊かで、稲作と畜産が盛んな地域です。また、保護者、地域の方々は学校への関心が高く、非常に協力的です。

本校は生徒数 65 名の小規模校です。生徒はしっかりと挨拶ができ、素直で純朴です。校舎は新田小学校と廊下でつながっており、いつでも行き来することができます。児童生徒は普段行き来することはありませんが、教職員は情報共有やちょっとした打合せなどで行き来します。

その利点を生かしながら、小中連携教育を推進し、中1ギャップの解消や9年間を見通した指導法の改善など目指しています。内容としては中学校教員の小学校への乗り入れ授業や児童生徒の小中縦割り活動や遠足、中総体壮行式への小学生の参加、合同校内研究などがあります。しかし、コロナ禍ということもあり、見直しや変更をせざるを得ない行事等もあります。そこで、できない理由を探すのではなく、小中の教職員とできる方法を検討し、生徒の成長のために何ができるか知恵を出し合うことを大切にしたいと考えています。

また、気軽に行き来することができる利点を生かし、小学校の校長先生と情報交換を密に行うことにしています。普通であると電話でのやりとりが多くなりますが、ちょっとしたことでも直接会って膝を交えて話をするので、児童生徒にとって成長につながる小中連携を推進していきたいと思っています。

//////////////////// 新任 抱 負 //////////////////////////////////////



地域に根差した 学校を目指して

南三陸町立歌津中学校長

阿 部 昭 博

東日本大震災から10年の節目の年、私は南三陸町立歌津中学校に校長として着任しました。震災前に歌津を訪れた時とは全く違った町の様子を見て、改めて震災による被害の大きさを実感しました。着任前から歌津中学校は防災教育に力を入れていると聞いていましたが、実際は想像以上でした。驚いたのは、授業中に地震が発生した時、教員が指示をしなくても、生徒が一斉に机の下に隠れたことです。生徒の防災に対する意識の高さを目の当たりにしました。自分の命を守る。周りの人の命を守る。そのためにはどのような考えを持ち、どのような行動をとるべきかを理解している生徒たちです。校長室に飾られている数々の表彰状が歌津中学校の防災教育の充実さを物語っています。

本校の学校教育目標は「志をもち、たくましく未来を拓く生徒の育成」です。教育目標の具現化に向けて、教職員一丸となって日々の指導にあたっています。職員室内は会話が多く、和やかな雰囲気になっています。生徒も明るく素直で、授業をはじめ諸活動に一生懸命に取り組んでおり、学校は落ち着いた中にも活気にあふれています。保護者や地域の方々も学校に協力的です。では、私は校長としてどのような存在であるべきか。このことは着任以来、常に悩み、自問自答してきました。ある日、ふと目に入ったのが歌津中学校の校章です。校章には「霊峰田束山」「太平洋の波」が図案化されたものが入っています。丸い校章は、海・山の豊かな幸に恵まれ、円満な人々の「和」の中で健やかに発展する歌津中学校を表しています。校章は私に教職員、生徒、保護者、地域が手を取り合い、豊かな自然の中で地域に根差した学校経営をしていくよう語り掛けているようにも思いました。

校長としてまだまだ力不足であり、今後も多くの問題に直面して悩むこともあるかと思いますが、自分の信念をしっかりと持って学校経営を行っていきたくと考えています。

編 集 後 記

コロナに翻弄された学校も、少しずつではありますが本来の教育活動が再開しております。振り返ってみると中総体も無観客で開催した地区や会場がありましたが、子どもたちのはつらつとしたプレーが繰り広げられました。子どもたちにとっては生涯の中での「瞬間の輝き」ではありますが「永遠の糧」を蓄えたことだと思います。

さて、我々中学校長会は会員同士のつながりを最大限生かし、職能集団としての機能を高めることで、各学校における学校運営の充実に資することが目的の一つです。コロナ禍からアフターコロナを見据えつつ、未来を予想しつつ活動を行っていきたくと思います。

会報編集の担当として、あらためて各校長先生方が執筆した文章を読みました。読んでいくとその文面からそれぞれの校長先生方のお人柄がよく現れております。校長としての覚悟、地域と共に歩む学校、子どもたちの成長、校長室運営など、学校経営の一端を垣間見られ、読みながら気付くと自然に微笑んでしまっている自分がいました。そして共通しているのは教育への情熱と気迫、子どもへの深い愛情であります。読後には力強いパワーを得、自身の未熟さを埋めるとともに学校経営への活力をいただきました。

今回の会報では長澤会長の挨拶と、新任校長を代表して12名の校長の抱負を中心に編集いたしました。ご一読いただき職務遂行の一助となれば幸いです。(情報部 牛渡)

令和3年度 宮城県中学校長会事務局

〒985-0851

多賀城市南宮字八幡170

多賀城市立第二中学校内

TEL : 022-309-1351

FAX : 022-309-1352

E-mail : miyagi-kochokai@wine.plala.or.jp

事務局員 : 佐々木 奈美子



宮城県中学校長会ホームページ
http://www13.plala.or.jp/miyagi-jhs/